

13 ディスレクシアって何？

知的能力や視覚・聴覚機能も問題がないのに、生まれつき読んだり書いたりすることが難しい「ディスレクシア（読み書き困難）」という症状で困っている人たちがいます。この人たちは、一生懸命に字を読んだり書いたり覚えようとしてもうまくいかないことが多くあります。日常会話などは普通の人と同じようにできるので、「怠けている」、「努力が足りない」とまわりから指摘されてしまうことがあり、とても苦悩しています。このような人たちも生きやすい社会とはどのようなものか考えてみましょう。

ワーク 1

(1) ディスレクシアの人といっても、人それぞれ異なります。たとえば、

い⇄こ

し⇄つ

この2組のように、それぞれの形状が似ていることから、同じものに見えてしまう（区別がつきにくい）ことがあります。

次の11個の文字はどのような文を読んだか考えてみましょう。

そいにこるのほぬいです

答えは、このページの最後にあります。

書いてあることを正しく理解するのは大変な時間と労力を要することがわかるでしょう。今の場合は、い⇄この他にもは⇄ほやね⇄ぬなどを読み間違えたものと考えられます。

他にも あ⇄お い⇄こ か⇄や く⇄へ さ⇄き
し⇄つ た⇄に ね⇄ぬ は⇄ほ わ⇄れ

などは間違いやすく、ディスレクシアの人が、読むのに苦労している例です。実際の見え方は、人それぞれですが、文字がにじんで見えたり、ゆらいで見えたり、鏡文字となって見えたり、かすんで見えたりすることが知られています。

誰でも、不得意なこともあれば、得意なこともあります。ディスレクシアの人の場合は、読み書きに困難があるために、それを補う工夫をするうちに得意になることもあります。例えば、身体能力、演技力、工夫する力、発明する力、空間認知、音楽的センス、営業力、想像力、創造力など・・・読み書きに困難があっても、文字以外の様々な媒体をとおして、知識を吸収して自らを生きかしていくことは可能です。

(答え) そこにいるのはねこです

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんでしたか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまいう子。本読みがつまりつまりでしか読めない子。きつといたことと思いません。彼らは、そうしたくしていただのでしょうか。それとも、がんばっていたのだでしょうか。

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんでしたか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまいう子。本読みがつまりつまりでしか読めない子。きつといたことと思いません。彼らは、そうしたくしていただのでしょうか。

文字がにじんで見えたり

文字がゆらいで見えたり

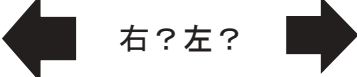
思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんでしたか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまいう子。本読みがつまりつまりでしか読めない子。きつといたことと思いません。彼らは、そうしたくしていただのでしょうか。

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんでしたか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまいう子。本読みがつまりつまりでしか読めない子。きつといたことと思いません。彼らは、そうしたくしていただのでしょうか。

鏡文字となって見えたり

かすんで見えたりします。

ディスレクシアのいろいろな困難（人それぞれに違います）

視覚的な認知の偏り	聴覚的な認知の偏り	手先が不器用
	らくだ → だくだ	マス目に文字がうまく入らない
短期記憶が弱い	作業記憶が弱い	順序だてるのが苦手
「ディス…」なんだっけ	電話番号を聞いて、しばらくしてそれを逆から言うのはできない	書き順を覚えられない
似た意味の文字を間違える	左右がよくわからない	文字の左右がよくわからない
湖 → 海		b e d → d e b
言い間違え	聞き分けができない	行間が読めない
トウモロコシ → トウロモコシ 椅子 → 机 湖 → いずみ	ザワザワした中で一人の人の声を聞き分けるのが難しい	文章を読んでも、中に含まれている意味は読み切れない
人の表情が読めない	顔と名前が一致しない	時間を読めない
複雑な表情がわからない	写真はなおさらわからない	アナログ時計が読めない

ワーク 2

- (1) 次の文章は、ディスレクシアの当事者である井上 智さんが綴った文章です。
キーワードだと思う箇所に下線を引きながら、文章を読んで著者の思いを知った上で、設問に答えてください。

【「音」ではなく、「意味」で読む】

平仮名やカタ仮名は、ジャストミートな音を再生しないといけない。これが自分には、本当にむずかしい。

例えば、友達から宅配便が送られてきて、品名に「タラコ」とあったのを、「なんでタバコがクール便？」と思って、開けたらびっくり、なんてこともあった。

もし、漢字で「股関節」(こかんせつ)を、「またかんせつ」と読んだとしても、「股の付け根の関節のことだ」とわかる。

ところが、カタカナの「トランク」を「トラック」と読んでしまったら、どんな意味がつながらなくても、頭に浮かぶのは道路を走るトラックの画像。おかしいなと思って、何度読み返しても「トラック」になる。「トランクじゃない？」と言われて、「あっ」と気がつく。どちらも読めるはずなのに、1度思い込むと修正がききにくい。

その点、漢字は、「意味」でなんとかなる所がある。「走る」という字は「走っている姿」、「行く」という字は「行くぞと言っている姿」と重ねて覚えた。運転免許の試験に出てきた「交差点」「信号」などの単語もそうだ。今は、「こうさてん」「しんごう」と読めるが、たとえ読み方を間違えても、画像は浮かぶ。だから意味で理解できた。

「意味」は、本当に重要だ。みんなは、「意味」を知るために読むんだろう？でもオレは、「読むために」「意味」が必要だった。

「文字をつなげ」⇒「言葉にし」⇒「意味を知る」ではなく、

「文字の姿から意味を浮かべ」⇒「それを手がかりに読んでいく」。だから、とても時間がかかる。

「大変な思いをしながら読んでいるんだね」と妻が言う。

そうなん？自分には自分の感覚しかわからない。

でも、みんなはもっとラクに読めてるのかな。

いいなあ。オレもそんなふうに読めたらよかったのに。

「読めなくても、書けなくても、勉強したい ディスレクシアのオレなりの読み書き」
井上智・井上賞子 著 ぶどう社 平成24年1月

(1) 著者は自身のディスレクシアについて、どのような特徴を述べているか書きましょう。

(2) あなたが読み・書きが困難だったとしたら、どのような場面で困るか考えてみましょう。

(3) ディスレクシアの人が学校や社会の中で生きやすくなるためには、必要な支援や取組みを考えてみましょう。

ワーク 3

今回の学習をとおして、感じたことや考えたことを書きましょう。

解説 ディスレクシアって何？

1 ねらい

知的能力や視覚・聴覚機能も問題がないのに、生まれつき読んだり書いたりすることが難しいという症状を「読み書きのLD」、「ディスレクシア（読み書き困難）」といい、この症状で困っている人たちがいる。

平成 25 年 10 月 4 日付けの文部科学省初等中等教育局長通知において、学習障害とは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」といった学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかったり、うまく発揮することができなかつたりすることによって、学習上、様々な困難に直面している状態」としている。

認定NPO法人EDGE「ディスレクシアって？」によると、

読むためには文字を認識し、音と結び付け、いくつかの文字のつながりで単語として認識し、理解することが求められます。これがスムーズにできないと、たどたどしい、読み間違える、音読すると意味が分からないなどの症状が出ます。

書くためにはまた別の能力が求められます。書き写す、場所を移す、考えを書き記す、言われたことを書くというのでも違う能力が求められます。言われたことを書くのが一番大変かもしれません。耳から入った音を文字に変換して（特に日本語では漢字を想起しなくてはなりません）指先に「書け」と指令を出してやっと書けるのです。

「ディスレクシア」については、まだまだ認知されていないことが多く「怠けている」や「努力が足りない」などと決めつけられ、責められ、そのような言葉を繰り返し言われることで本人も「努力が足りなかった」「何をやってもダメな人間なんだ」と苦しんでいる。保護者は、「やればできるはず」と本人を励まし、また「育て方を間違えた」と自らを責めることがある。

そこで、「ディスレクシア」の疑似体験をすることでディスレクシアの人たちはどのような困り感をもっているのか、また日々の生活のなかでどのようなことに困り感をもっているのかを考えながら、ディスレクシアについて理解し、すべての人が生きやすい社会にするためにはどのような社会にしていける必要があるのかを考え、支えあいながら生活をしていくという資質を育てたい。

2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (25分) ディスレクシアの見え方を体験する。 ① 文字列を見て、読みにくい原因を考える。 ② 資料を見て、ディスレクシアの人の様々な困難を知る。 ③ ディスレクシアの人は、得意な事、分野があり、それを生かして活躍している人がたくさんいることを知る。	○ ひらがなのみで書かれている文字列により、目に入る情報次第で、読みにくいこともあることについて理解を促す。 ○ 目に入る情報が捉えにくいと意味を理解しにくいことを説明する。 ○ 資料により、ディスレクシアの人の困難の理解を促す。 ○ 読み書き困難を整理した上で、ディスレクシアの人には、得意な事、分野があり、それを生かして活躍している人がたくさんいることについて理解を促す。
2 ワーク2 (20分) ① 著者の気持ちを読み取り、理解を深める。 ② 社会のさまざまな場面での困難を考える。グループで話し合い、考えを深める。 ③ ディスレクシアの人が生きやすくなるためにはどのような取り組みが必要か考える。	○ 文章を読んで、ディスレクシアの特徴やわかって欲しいことについて理解を促す。 ○ 高校生活の中や今後の就職活動や社会人になってから、読み書きが必要な場面がどのくらいあるか考えながら話し合うように促す。 ○ (1) で挙げられた困り感を解消するためにできることを、グループ内で話し合うように促す。 ○ 自分の周りにも当事者がいる可能性があるということもふまえて考えるように促す。
3 ワーク3 (5分) 今回の学習をとおして、気づいたことや考えたことを記入する。	

3 解説



認定 NPO 法人 EDGE (<https://www.npo-edge.jp/educate/>) より

(1) ワーク 1 について

「そいにこるのほぬいです」という文字列を考える。似ている文字を間違って認識したら、何が書いてあるかわからず困ることを実感させたい。い⇄こ と は⇄ほ と ね⇄ぬ などは区別がしにくく、「そいにこるのほぬいです」と見えてしまったことを理解する。このように文字をうまく認識できないと、書いてあることを理解することは大変であり、ディスレクシアの人は、そうした困難をもって学習上の困難を感じていることを理解するとともに、実際の見え方についても例として紹介し、困難を理解させたい。また、見え方ばかりではなく、ディスレクシアのさまざまな困難を紹介して、理解を深める。

(2) ワーク 2 について

井上智さんの書いた文章を読み、その困難を理解するとともに、支援するための方法等を考えるきっかけとする。学校や社会における生活では、読み書きが必要な場面が数多くある。授業中の音読や筆記試験、直筆でのレポートや作文、資格取得のための学習、進学のための入学試験や就職のための履歴書作成や社会人になってからは書類作成や電話メモの作成などの場面がその例である。

ディスレクシアの人は、それぞれの方法で大変な努力を重ねながら読み書きをしても、まわりの人たちからは、日常会話や運動などは普通にできるので「怠けているから」と責められ、保護者も「やればできる」と本人を追い立て、そのうち「育て方を間違えたから」と自らも責めてしまう。本人は「努力が足りないから自分は読み書きができないのだ」と思い込み、やがて成果が出ないことに傷つき「何をやってもだめなんだ」と苦悩する。しかし、(1) でふれたように、ディスレクシアの人が得意なことを生かして、活躍できるよう支援することが大切である。

読み書き支援の考え方として、「授業に参加できるように支援する」が目標の一つである。具体的には、一人ひとりでその人にあった支援策を見つけていくことが大切である。読み書き支援の具体例として「LDの子の読み書き支援がわかる本」 小池敏英 監修 講談社（平成 28 年 9 月）より紹介する。

① 言葉の音を記号でビジュアル化する

＜やり方＞ 文字を●や▲などの記号に置き換える。小さい「っ」や「ょ」などは小さい□や_●で表す。記号を書くのが苦手な人もいるので、記号を書いたカードを用意して、文字にあった記号のカードを選ばせるようにする。

例： ●□●●（がっこう） ●—●●●（きゃべつ） ●▲●—●（でんしゃ）

＜効果＞ 文字を記号でシンプルに表現することで、文字と音の変換が理解しやすくなり、音韻意識の弱さが補われる。口頭のやりとりと視覚的な記号を両方使うので、視覚や聴覚の弱い人にも役立つ。

② 漢字の読み方と絵を組み合わせて学ぶ

＜やり方＞ 漢字の単語カードと、その単語のイラストのカードを用意する。読めない単語をすべてカード化するのは大変なので、1回当たり単語5つ程度にする。

＜効果＞ 読み書きしやすい環境や状態を作ること大切である。読み書きに慣れてもミスがしやすい所があれば、線を引いたり色をつけたりする。

③ 補助線などを使って課題の難易度を下げる

＜やり方＞ 文字や記号などの位置関係がつかめず、読み書きに支障が出ている場合には、教材に文節ごとに「／」を入れたり、読みにくい漢字にマーカーを入れるなど補助線を入れて、読みやすくする。

＜効果＞ 視覚的な情報が手がかりとなって、漢字と読み方が結びつきやすくなる。聴覚記憶が弱く、読み方を音として記憶するのが苦手な人に有効である。また、単語がわからないために文章のつながりが理解できていない場合にもよいサポートになる。

④ 長い文章を読むときは、写真をヒントに

＜やり方＞ 文書を読む前に、その文章に関連する写真やイラスト、動画などを使って会話をする。支援者が事前に文章に目をとおしておき、その内容と関連したことを話したり、聞いたりする。パソコンやタブレットを使うことで必要な写真などを手軽に見つけることができる。

＜効果＞ 文書を読む前に、その内容を大まかにでも把握しておけば、文章全体も読みやすくなる。すぐには読めない漢字があっても、前後の文脈から情報を補い、読むことができたりすることもある。文章のつながりにも意識が向くようになる。

このほか、スマートフォンやタブレットを活用することで「単語やイラストを表示する」、「カードなどの教材を作成する」、「文字の読み上げや音声入力などの読み書きサポート機能を利用する」「文章を読んでも理解できないことを調べる」などで支援の幅が広がり、授業に参加しやすい環境づくりを進めることができると考えられる。

視力の弱い人がメガネを使用したり、肢体不自由の人が車椅子を使用することで活動の幅が広がるようにディスレクシアの人がタブレットなどを使用するなどで活躍の場を広げるなど、すべての人が活躍できる社会をめざしたい。

＜引用文献＞

- ・『「読める」ってたのしい。」
（公財）日本障害者リハビリテーション協会
- ・「読めなくても、書けなくても、勉強したい ディスレクシアのオレなりの読み書き」
井上智・井上賞子 著 ぶどう社 平成 24 年 1 月
- ・「ディスレクシアでも大丈夫！ 読み書きの困難とステキな可能性」
藤堂栄子 著 ぶどう社 平成 21 年 4 月
- ・「ディスレクシアって？」
認定 N P O 法人 E D G E <https://www.npo-edge.jp/educate/>
- ・「LD の子の読み書き支援がわかる本」 小池敏英 監修 講談社 平成 28 年 9 月

＜参考資料＞

- ・「病の起源 第 4 集 読字障害」 NHK テレビ 平成 20 年 10 月放送
- ・「ディスレクシアとは」 一般社団法人日本ディスレクシア協会
<https://jddyslexia.com/information/dyslexia.html>
- ・「ディスレクシアを理解するために」 発達性ディスレクシア研究会 編集
平成 26 年 4 月